



組み立てを始める前にお読みください

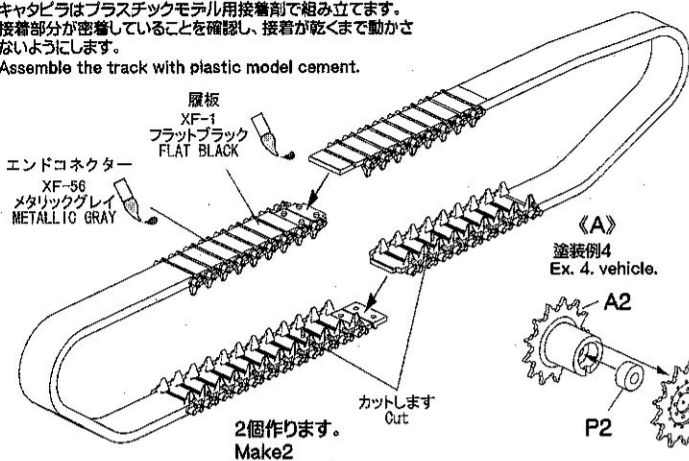
- あらかじめ組立説明書に目を通し、全体の流れを把握しておきましょう。
- このキットは4種類の塗装例を選べますが、それぞれで一部仕様が異なります。最初にどの塗装例にするか決めてください。
- ナイフやニッパーなどの刃物の取り扱いには充分ご注意ください。商品の性格上先端の尖った部品があります。お取り扱いには充分注意して下さい。
- 部品とランナーをつなぐゲートには部品の下側に入り込んでいるものと、横に付いているものがあります。注意してカットしてください。
- 部品は接着剤をつける前に接着位置を確認するなど必ず仮組みをして下さい。特に可動部には接着剤がつかないように注意してください。
- 成形品には金型の油や離型剤がついている場合があります。組み立て中の汚れ落としを兼ねて塗装前に中性洗剤で洗うことをお勧めいたします。
- 成形品の接着にはプラスチックモデル用接着剤、エッチングの接着には瞬間接着剤をご使用ください。

- Study the instructions thoroughly before assembly.
- When assembling this kit, tools including knives are used. Extra care should be taken to avoid personal injury.
- Read and follow the instructions supplied with paints and/or cement, if used.
- Use plastic cement and paints only (available separately).
- Use cement sparingly and ventilate room while constructing.
- Keep out of reach of small children. Children must not be allowed to suck any part, or pull vinyl bag over the head.

1 キャタピラの組立

キャタピラはプラスチックモデル用接着剤で組み立てます。接着部分が密着していることを確認し、接着が乾くまで動かさないようにします。

Assemble the track with plastic model cement.



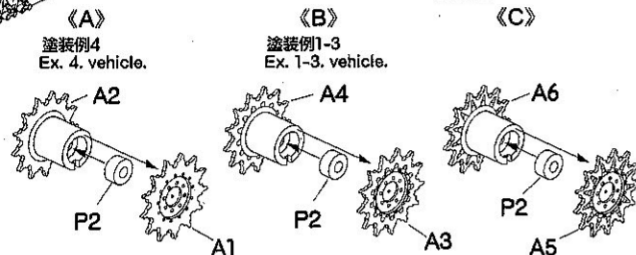
2 ドライブsprocketの組立

ドライブsprocketは3種類あります。本キットの塗装例の車輻では塗装例4がA、それ以外は全てBのタイプになります。

XF-62
オリブドラブ
OLIVE DRAB

組立図中で特に指示のないところは全て基本色(オリブドラブ)です。

《ドライブsprocket》2個作ります。
Make 2



3 ホイールの組立

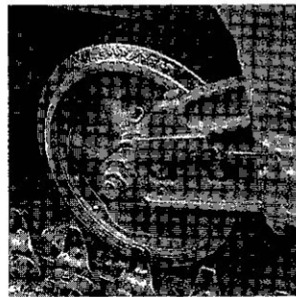
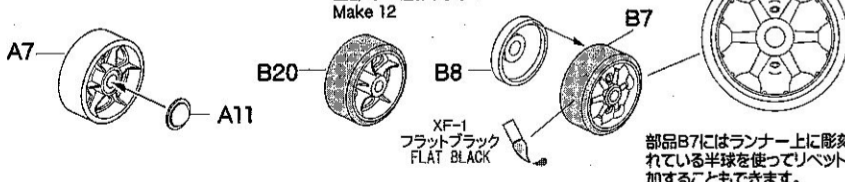
《アイドラーホイール》

2個作ります。
Make 2

《ロードホイール》

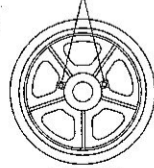
ロードホイールはスポークタイプ(B20)を主に使用します。実車では塗装例4のようにB7のソリッドスポークタイプを部分的に使用している例がみられます。

全部で12個作ります。
Make 12



GREASE NIPPLE
グリスニップル

A7
B20



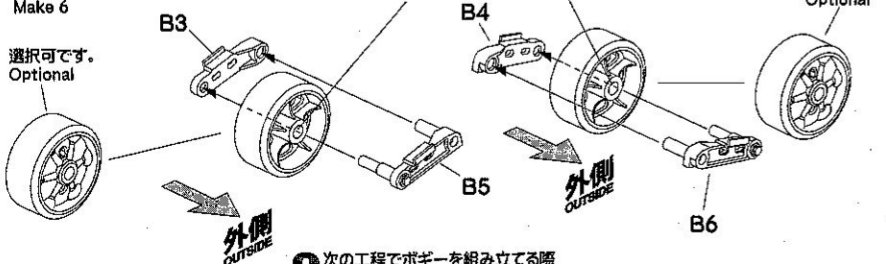
外側
OUTSIDE

A7, B20はグリスニップルの模様のある側が外側になります。

4 サスペンションアームの組立

各6個作ります。
Make 6

選択可です。
Optional



次の工程でボギーを組み立てる際に、矢印で示した側が外側になるように注意します。

5 ボギーの組立

左右各3個作ります。
サスペンションアームを組み込むまでは
間を開けず一度の工程で組み立てます。
図は左側用を示しています。
Make 3 for each side.

発泡ゴムのシートを約4.5ミリX11ミリの
大きさにカットします。右の図を参考に
カットしてください。

Cut rubber sheet.

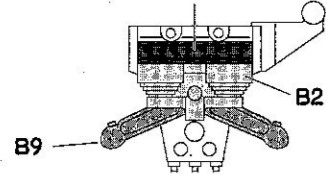
4.5mm X 11mm

原寸

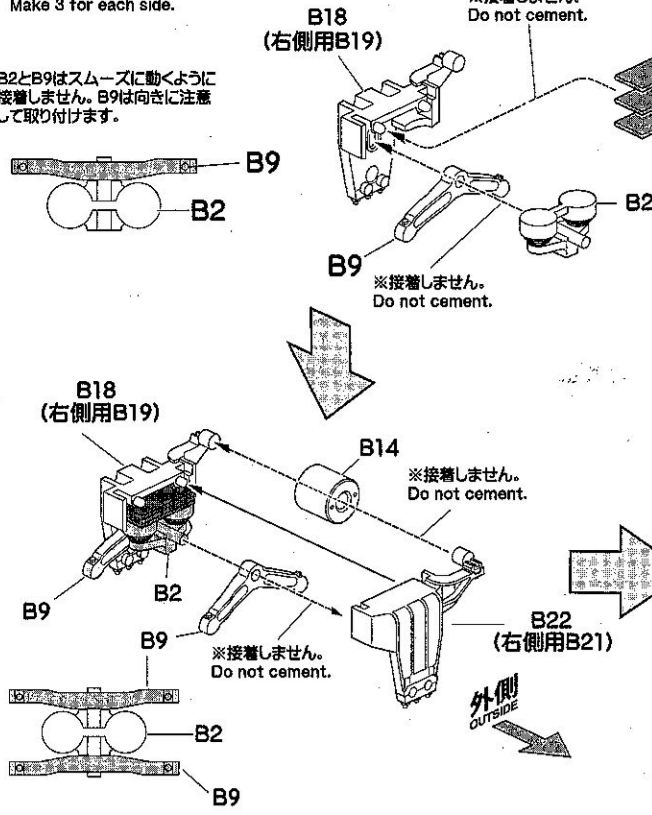
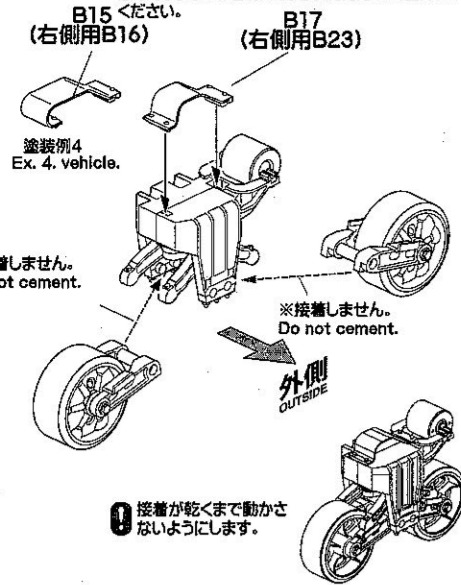
《発泡ゴムシート》 Rubber sheet

カットした発泡ゴムのシートをサスペンションの間に
ピンセットなどで押し込みます。3枚が標準ですが、
傾斜などで台に固定する場合などは、前後のサス
ペンションを4枚にするなどしてテンションを調節し
ます。

《発泡ゴムシート》



サスペンションの沈み込みの再現は必要ない場合、
発泡ゴムシートを組み込みます。B2を一番下まで下
げた状態（標準位置）で接着し、高さを固定する方
法もあります。お客様の使用状況に応じて選択して
ください。



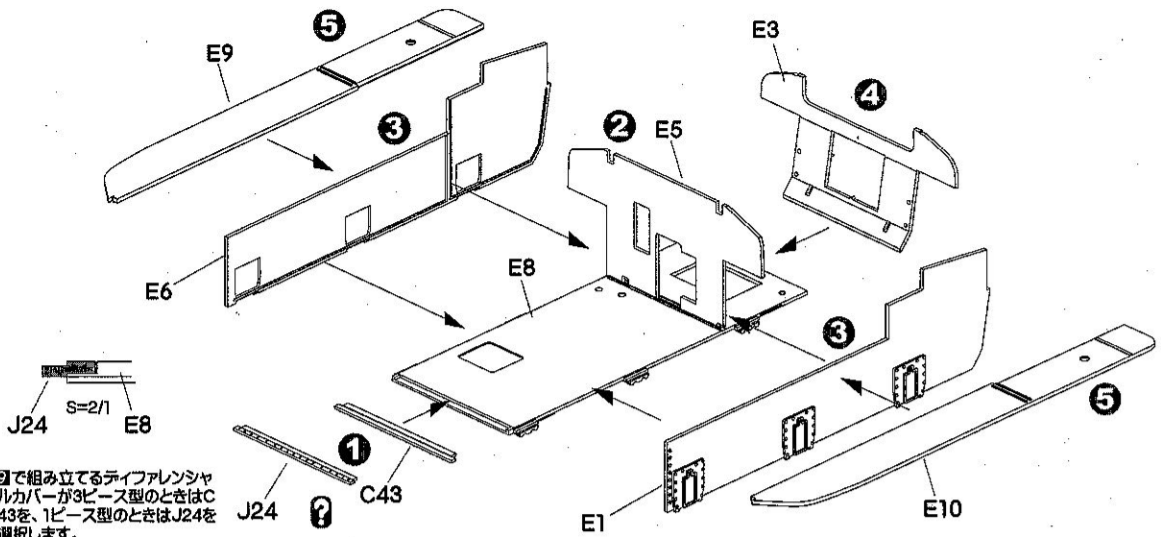
B18とB22（右側用はB19とB21）が完全に
固着する前にサスペンションアームをボギー
に押し込みます。
アームの車体側と外側の向きに注意します。
Push road wheels in before cement sets.

0 接着が乾くまで動かさ
ないようにします。

6 車体下部の組立

①から⑥の順番に組み立てます。各部品の仮組みを必ず行い、接着部分の確認を
しておきます。部品を仮組みしてから流し込み接着剤で接着するとよいでしょう。
この工程は中断せずに一度に組み立てて下さい。

Assemble steps ① to ⑥ in sequence. This assembly should be performed without interruption.



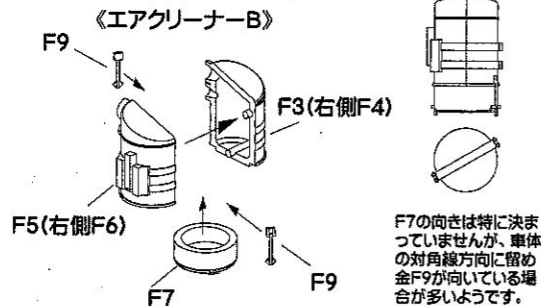
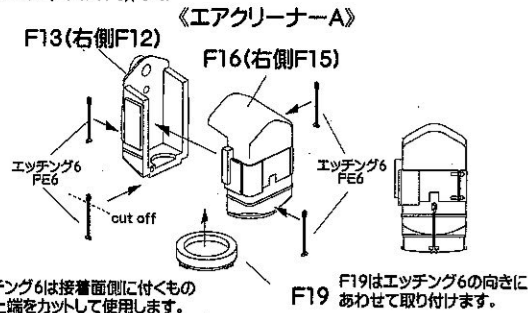
②で組み立てるディファレンシャルカバーが3ピース型の場合はC43を、1ピース型の場合はJ24を選択します。

If the differential cover is the 3-piece type, select C43.
If it is the 1-piece type, select J24.

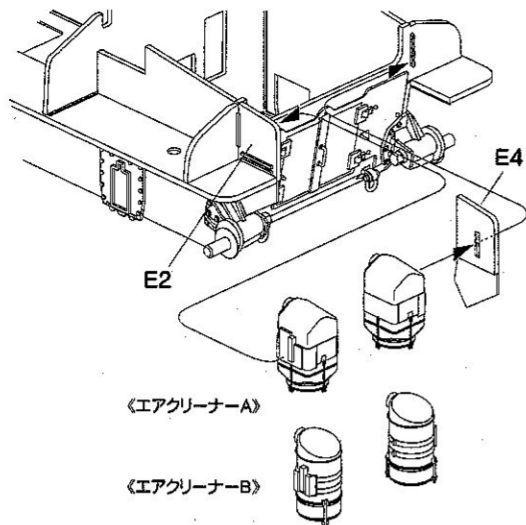
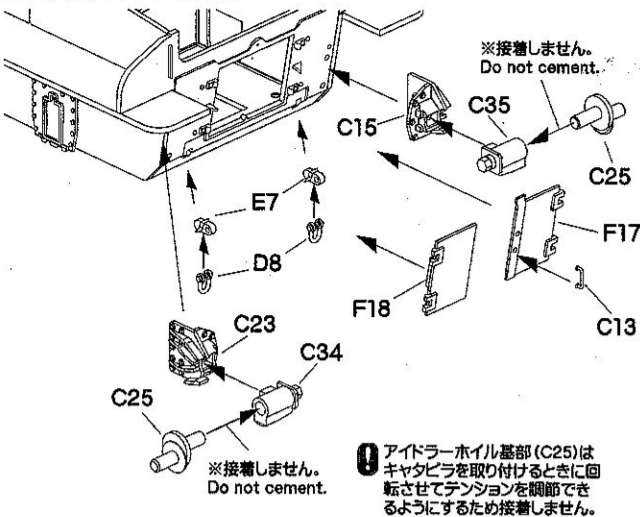
7 エアクリナーの組立

For all examples, with the exception of type 4.

実車ではエアクリナーのタイプは塗装例4の車輛がBを装備している以外はA/Bどのタイプが確認できません。塗装例4以外はお好みのタイプをお選びください。



8 リヤパネルの組立



9 ティアレンシャルカバーとフェンダーの組立

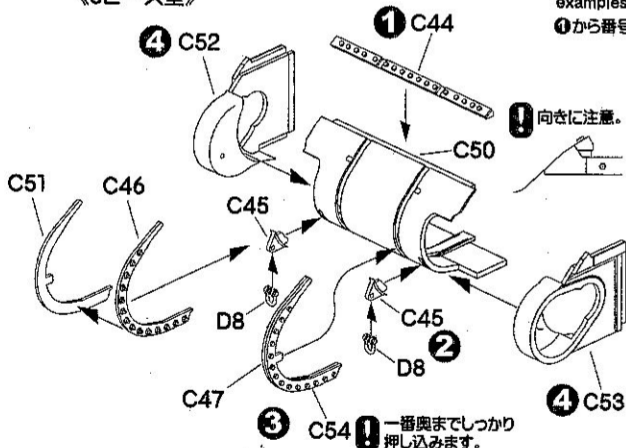
ティアレンシャルカバーは3ピース型か1ピース型のどちらかを選んで組み立てます。塗装例1、2は3ピース型 (推奨)、塗装例3は1ピース型、塗装例4は1ピース型 (推奨) を指定しています。

フェンダーはティアレンシャルカバーのタイプに合わせて組み立てます。組み合わせに注意して組み立てます。

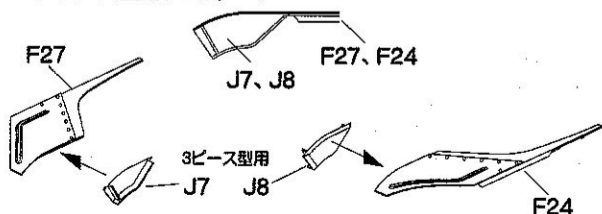
The paint job for examples 1 and 2 are of the 3-piece type. The paint job for examples 3 and 4 are of the 1-piece type.

①から番号順に組み立てます。

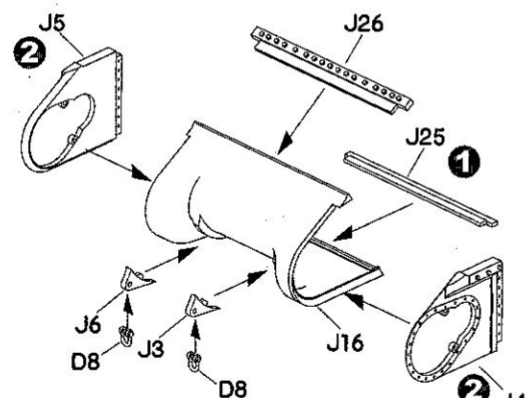
《3ピース型》



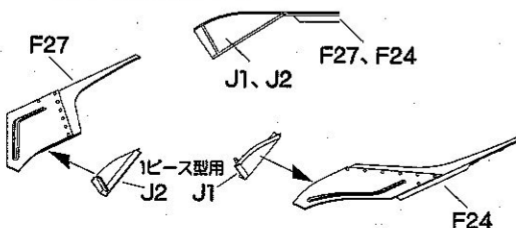
《3ピース型用フェンダー》



《1ピース型》

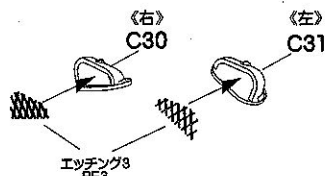


《1ピース型用フェンダー》



10 車体上部部品の組立

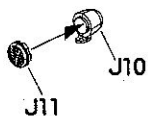
《グローサーボックスカバーの組み立て》



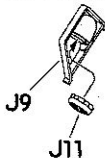
《ホーンの組み立て》

塗装例にあわせてどちらか選びます。

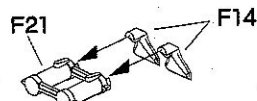
塗装例1-3
Ex. 1-3. vehicle.



塗装例4
Ex. 4. vehicle.

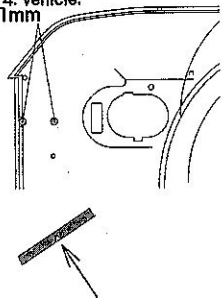


《排気管の組み立て》

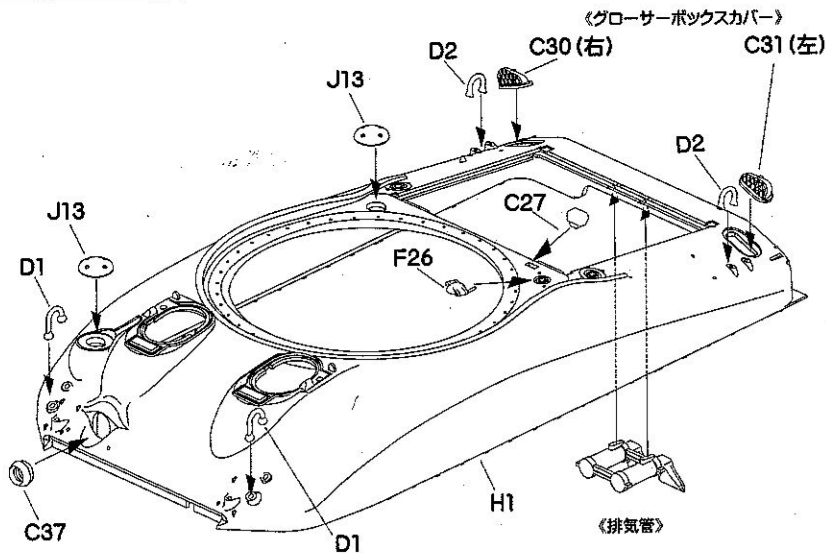


11 車体上部の組立

塗装例4
裏側から1mmのドリルで開口します。
Ex. 4. vehicle.
1mm



● 車体上部前面の開口部は斜めの面に対して直角方向に開けます。



12 車体上部の取り付け

車体上部は浮いていないか良く確かめながらしっかりと接着してください。

● 車体前方機銃C41は車体上部には接着せずに機銃防盾C29にのみ接着します。

Part C41 must only be glued to part C29.

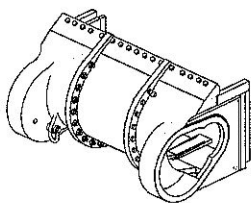
塗装例4 (推定)
Ex. 4. vehicle.

F1

● C29

X-10
ガンメタル
GUN METAL

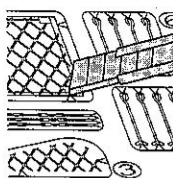
C41



《ティアレンシャルカバー》

《エッチングパーツについて》

- エッチングパーツの切り出しには、下に厚めのプラ板等を敷いてカッターナイフなどで慎重にカットして下さい。切り出しの際、下が柔らかいとパーツが変形します。
- 切り出したエッチング部品はブリッジ(繋ぎ目)の部分をヤスリなどできれいに成形して下さい。
- 直線部分の曲げ加工には専用工具を使うか、金尺等をしっかり当ててずれないように丁寧に曲げて下さい。
- 接着にはゼリー状瞬間接着剤か透明のゴム系接着剤をお使いください。
- 塗装面には金属用プライマーを塗布して下さい。

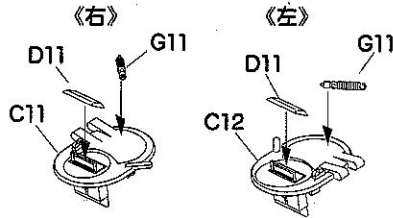
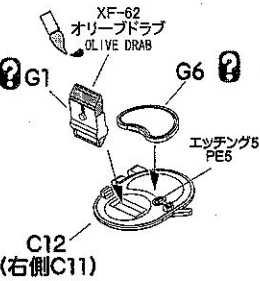


13 ドライバースハッチの組立

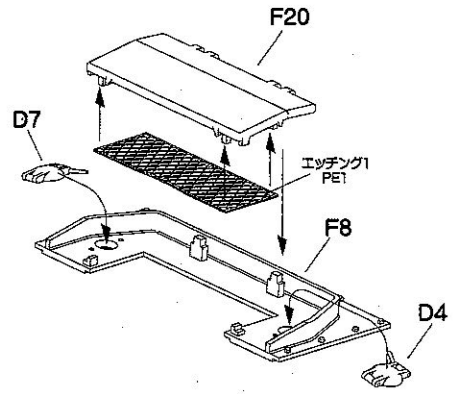
《ハッチ裏側の工作》

G6は取り付け自由です。
ペリスコープ(G1)は透明か色付きの
部品を選びます。

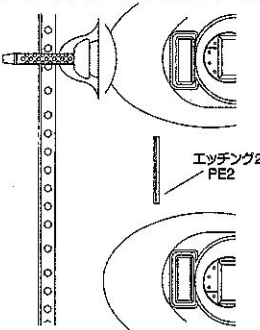
φ0.3mm位の真鍮線
等を使用してハッチに
取手を付けるとよりリ
アルに仕上がります。
右の原寸図を参考に
作ってください。



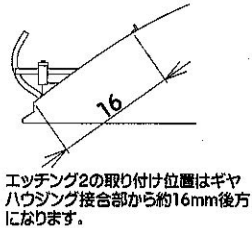
14 エンジンテッキの組立



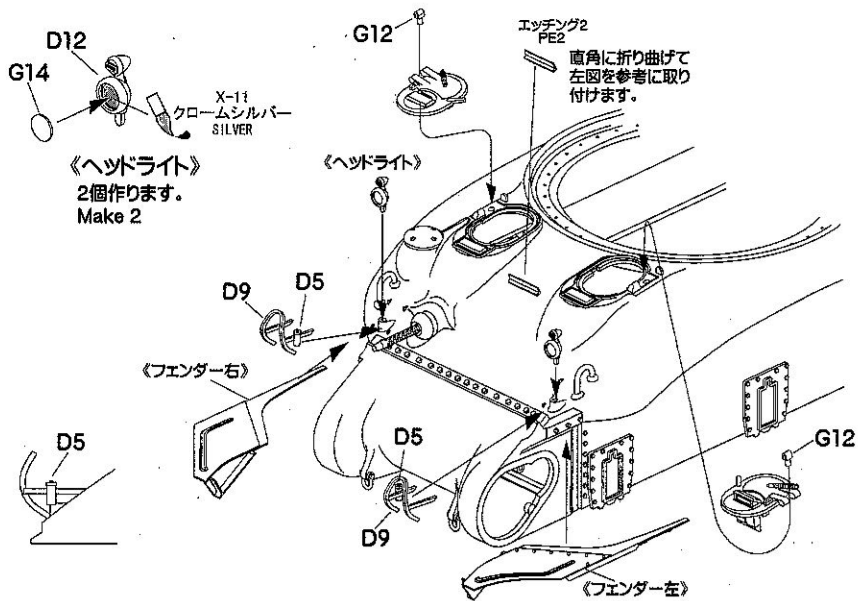
15 車体上部部品の取り付け



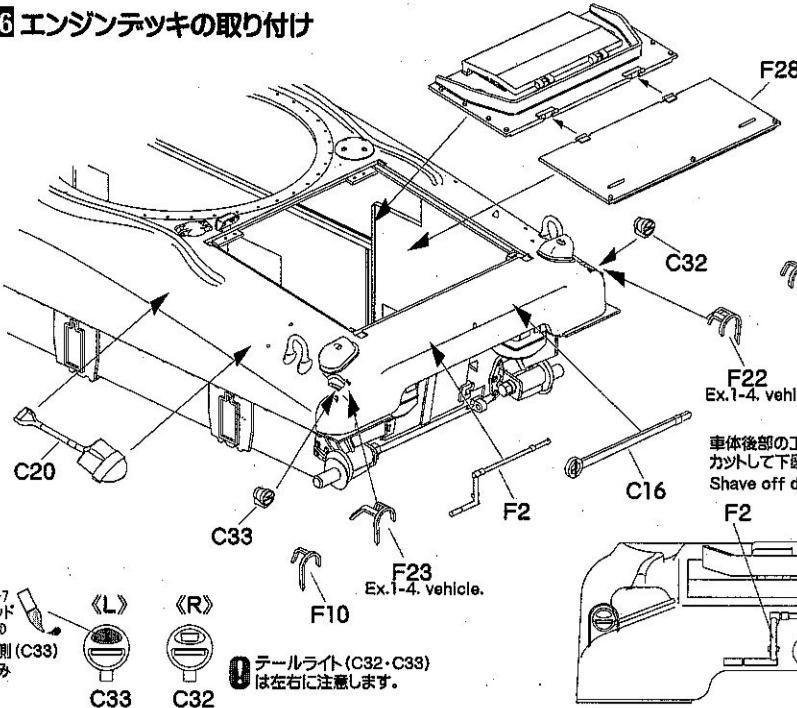
《ヘッドライト》
2個作ります。
Make 2



エッチング2の取り付け位置はギヤ
ハウジング接合部から約16mm後方
になります。



16 エンジンテッキの取り付け

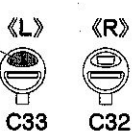


テールライトガードは支柱が1本のもと
2本のもがありますが、本キットの塗接例
では全て2本のタイプ(F22、F23)を
使用します。

車体後部の工具類は裏側の半球凸を
カットして下図を参考に取り付けます。
Shave off dowel from back of tools

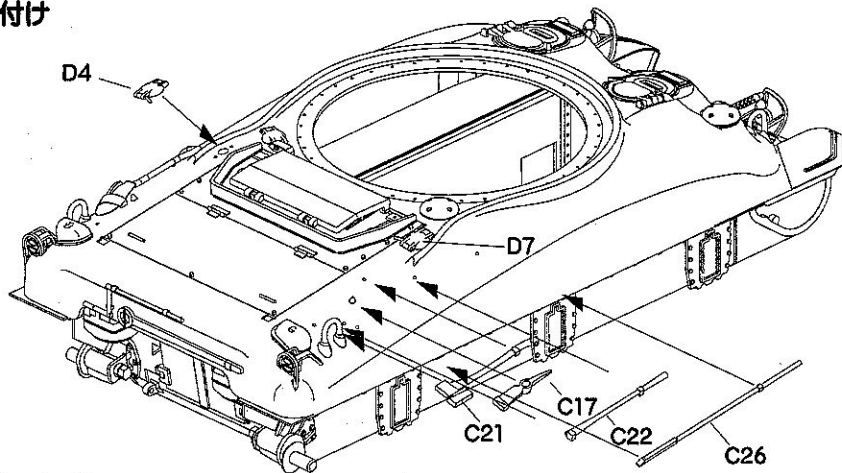
C24 塗装例のみ
Ex.4. vehicle.

X-7
レッド
RED
左側(C33)
のみ



●テールライト(C32・C33)
は左右に注意します。

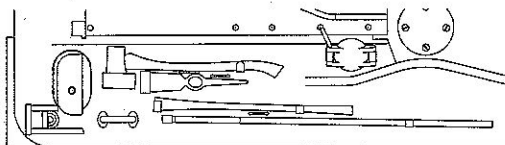
17 車体右側部品の取り付け



《OVM(車外装備品)の塗装について》

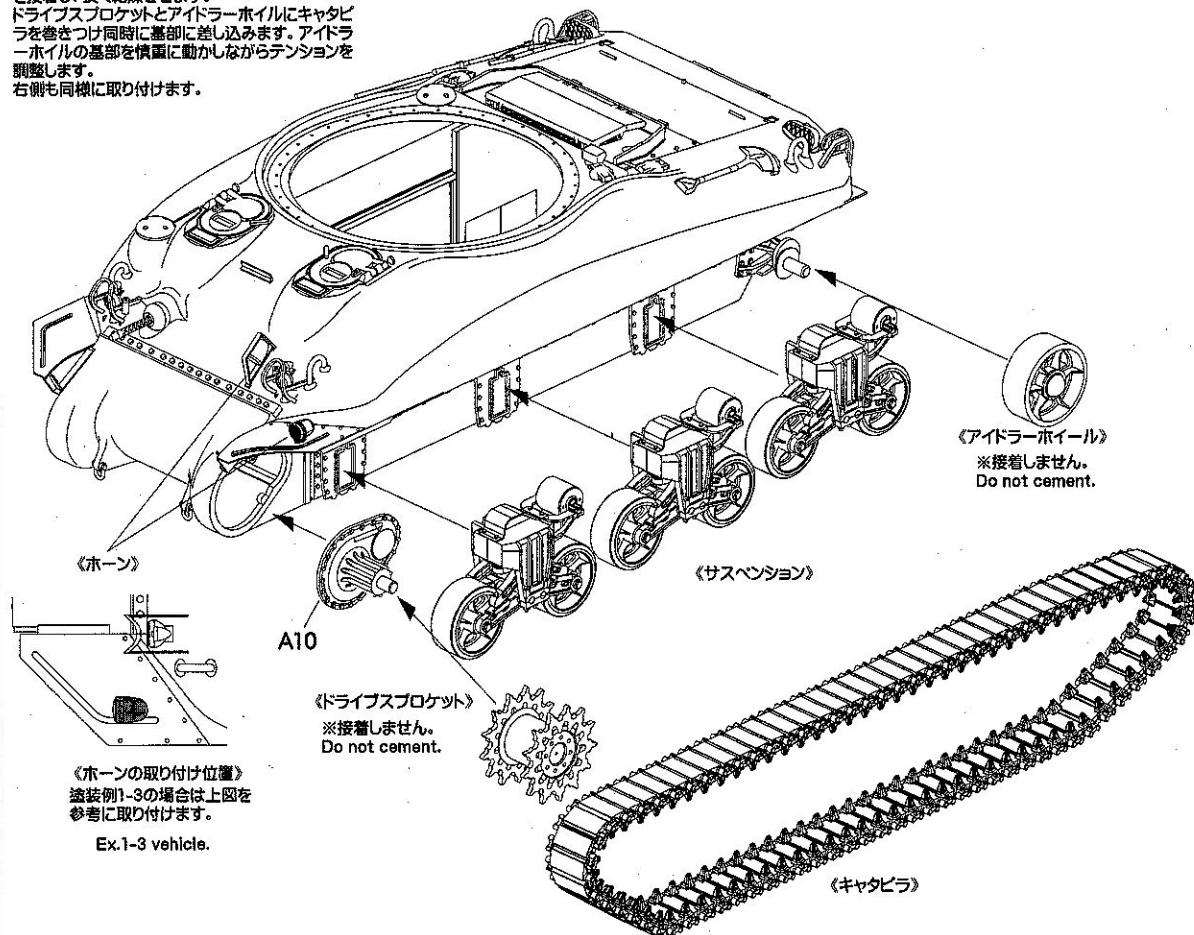
アメリカ製の軍用車輛の車外装備品は基本的に
 オリーブドラブで塗装されていました。本製品で
 も塗装指示は車体色との前掲に立ち、個別の塗
 装指示はしてありませんが、使用中に色がはげた
 り、汚れなどの表現をすると、単調にならずにリ
 アルになるでしょう。

S=1/1



18 キャタピラの取り付け

車体にファイナルドライブ (A10) とサスペンション
 を接着し、良く乾燥させます。
 ドライブプロケットとアイドラーホイールにキャタ
 ピラを巻きつけ同時に基部に差し込みます。アイドラ
 ーホイールの基部を慎重に動かしながらテンションを
 調整します。
 右側も同様に取り付けます。



《イドラーホイール》
 ※接着しません。
 Do not cement.

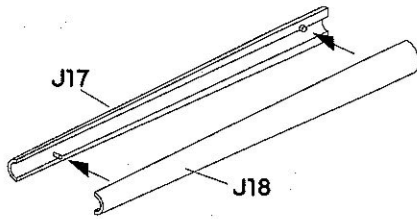
《ドライブプロケット》
 ※接着しません。
 Do not cement.

《ホーン》の取り付け位置
 塗装例1-3の場合は上図を
 参考に取り付けます。

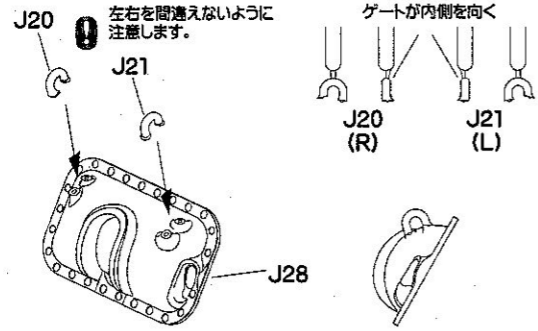
Ex.1-3 vehicle.

19 主砲の組立

《主砲の組立》



《砲架の組立》



塗装例4 (推定)
Ex.4. vehicle.

J22
(後期型)

塗装例1-3
Ex.1-3. vehicle.

J23
(初期型)

J19

※接着しません。
Do not cement.

《砲架》

※接着しません。
Do not cement.

X-10
ガンメタル
GUN METAL

P2

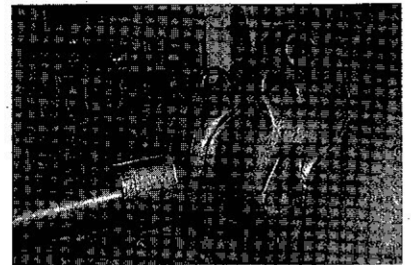
J29

P2

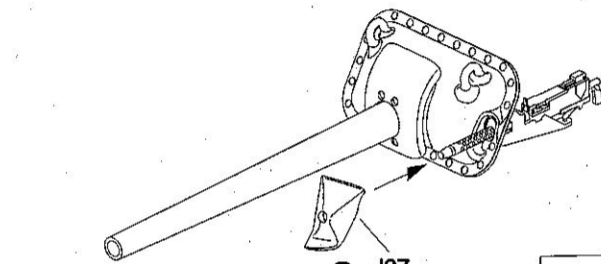
J19

C42

防盾J22、J23はJ29にのみ接着します。
主砲と連動するように仮組みで位置をよく
確認してください。



実車のM34砲架です。同軸機銃は取り外されています。車体はM4初期型。



J27
※接着しません。
Do not cement.

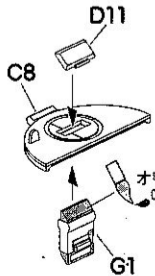
塗装例1,2,4 (推定)
Ex.1,2,4. vehicle.

同軸機銃用の小防盾 (J27) は砲身の可動範囲
に注意しながら接着せずに押し込みます。

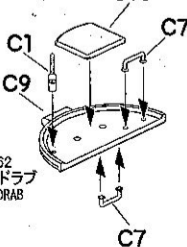
20 砲塔部品の組立

《コマンドースハッチ》

《右》

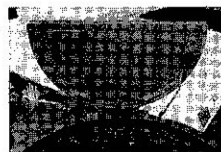


《左》



XF-62
オリーブドラブ
OLIVE DRAB

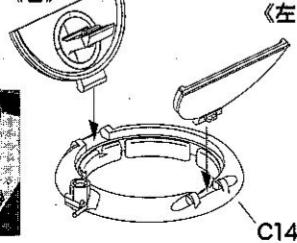
G1



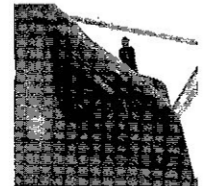
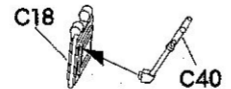
実車のコマンドースハッチ
パッドは失われています。

《排莢ハッチ》

《右》



《左》



実車の排莢ハッチ (半開状態)

21 M2重機関銃の組立

このページではキューボラ上に取り付けるM2重機関銃の組み立てを行います。
 機銃の揺架は2種類あるのでどちらか選んで組み立てます。
 非常に細かい部品が多いので慎重に組み立てましょう。

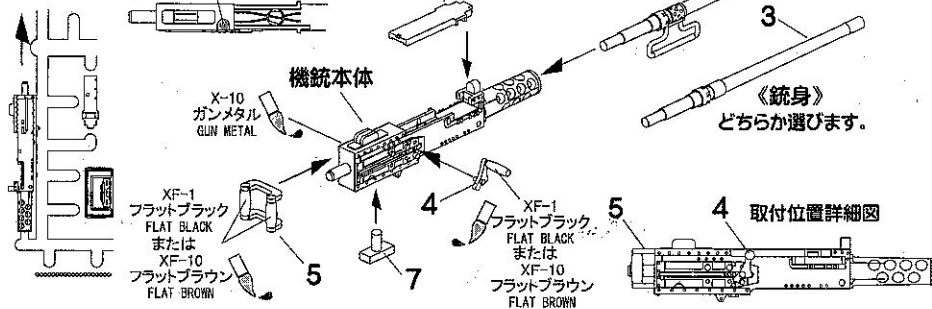
Choose one of the two types of machine guns to assemble.

A 機銃本体の組立

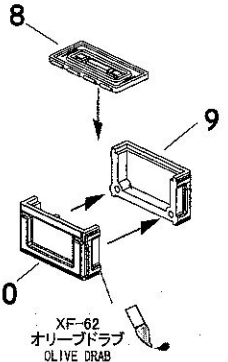
ランナーから機銃本体を引き抜きます。

ゲートの跡を整形します。

どちらか選びます。



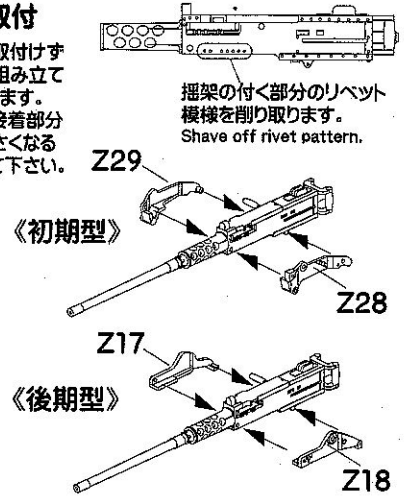
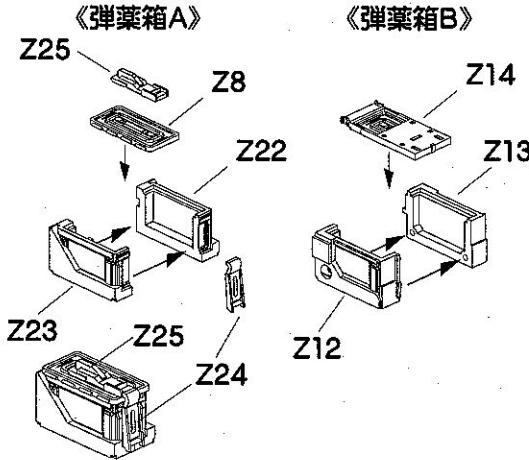
B 弾薬箱の組立



C 揺架の取付

機銃本体を取付けず揺架のみで組み立てることもできます。
 この場合は接着部分が非常に小さくなるので注意して下さい。

揺架の付く部分のリベット模様を削り取ります。
 Shave off rivet pattern.

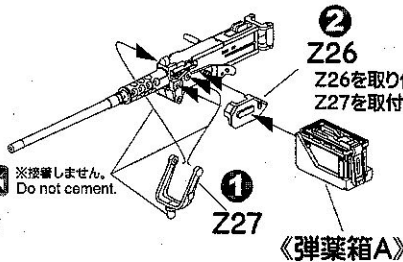


D 初期型揺架の組立

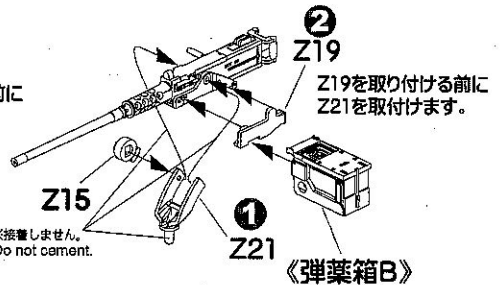
E 後期型揺架の組立

Z27の軸は若干太いのでカッターなどで若干細く加工します。
 Make Z27 about 0.1mm thinner before fitting Machine gun.

※接着しません。 Do not cement.



※接着しません。 Do not cement.



《予備銃身》

2 Spare barrel



本体から取り外した状態で使用するときはこの部品を使います。

《弾帯》

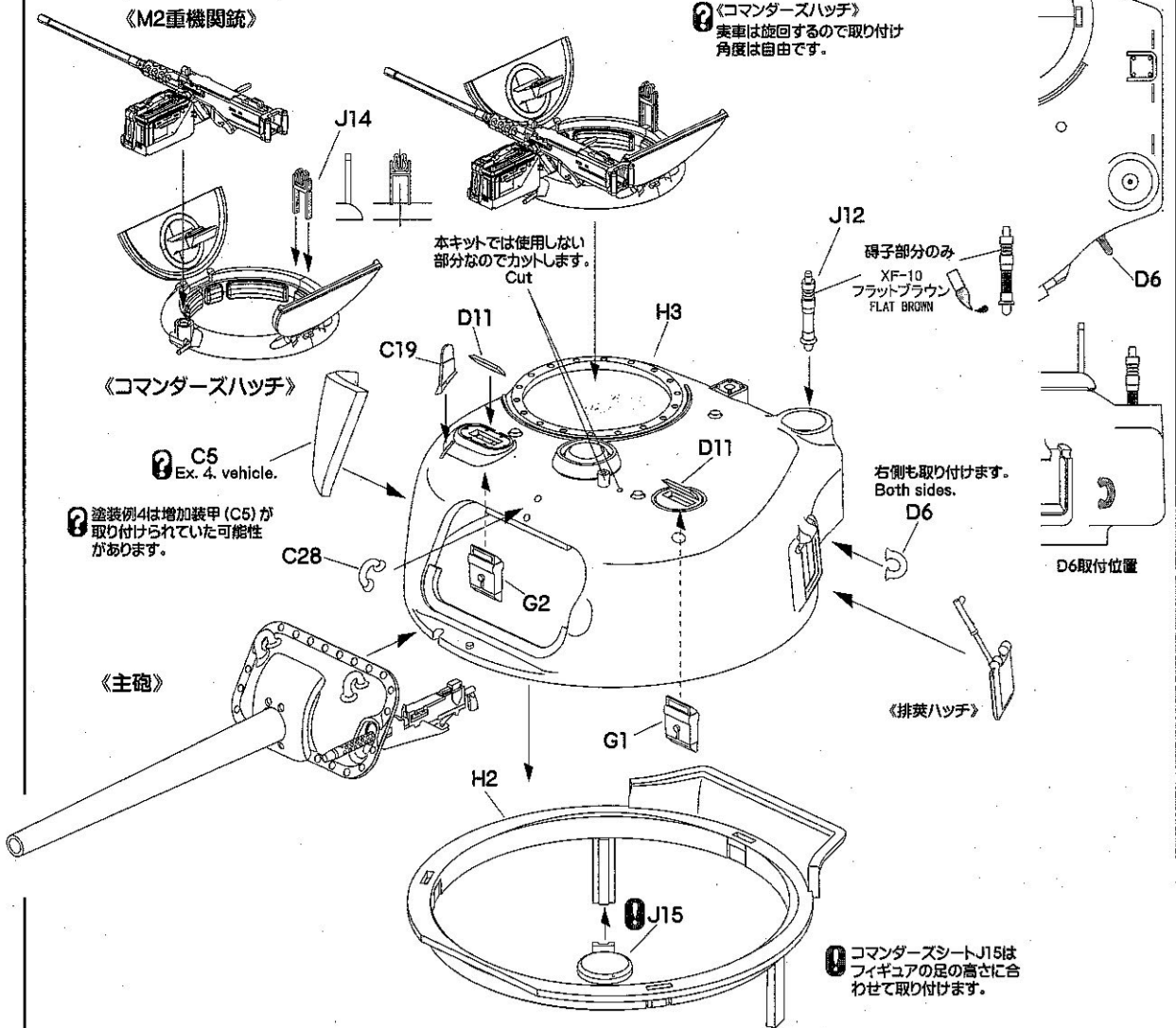
XF-56
メタリックグレイ
METALLIC GRAY

XF-6
コッパー
COPPER

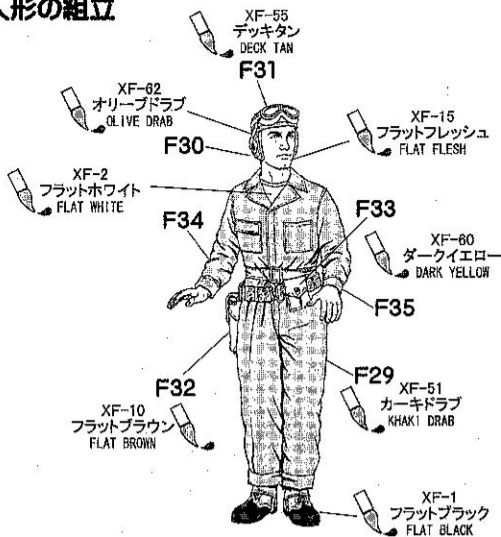
X-12
ゴールドリーフ
GOLD LEAF

弾帯はお湯に湿けながらゆっくり何回か手で曲げて馴染ませます。急激に曲げると折やすいのでご注意ください。

22 砲塔の組立



23 人形の組立



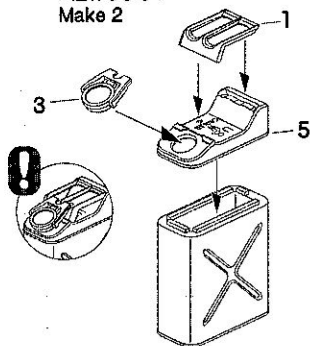
《戦車兵の服装について》

このキットの戦車兵は、HBT (ヘリンボーン・ツイル) のつなぎの作業服にタンクヘルメットを被った第2次大戦中のアメリカ戦車兵の標準的スタイルを再現しています。腰のピストルベルトにコルト・ガバメントのホルスターと弾薬ポーチ、ヘルメットにはゴーグルを取り付けています。作業服は明るめのOD色、ピストルベルトと弾薬ポーチはダークイエロー、タンクヘルメットはOD色、ホルスターは茶色でした。各部の塗装は左図を参照してください。

24 ジェリカンの製作

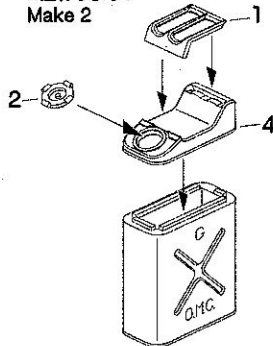
《水用》water

2個作ります。
Make 2



《ガソリン用》gasoline

2個作ります。
Make 2



■カラーナンバー対応表 ※近似色です

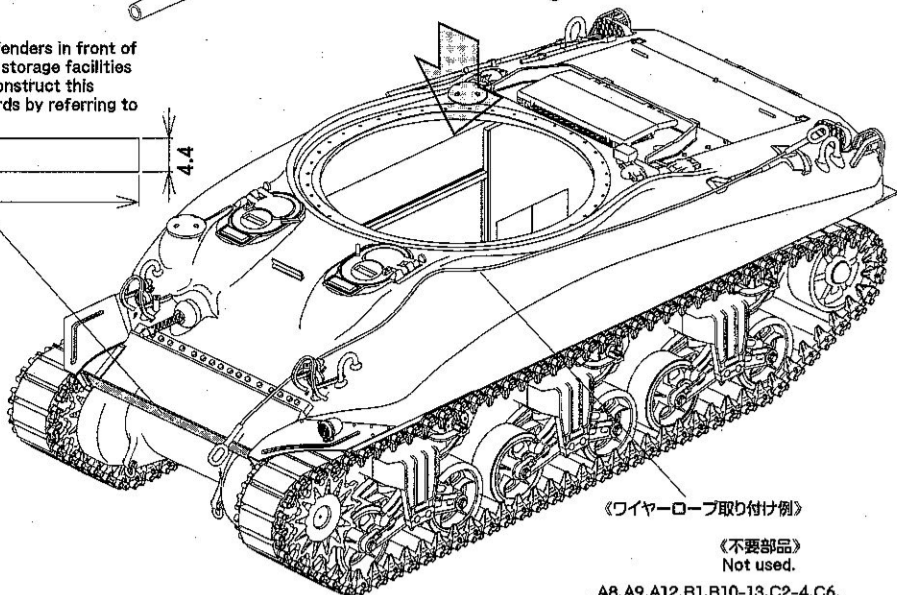
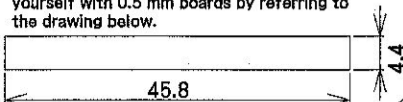
| タミヤカラー | GSiクレオス・Mr.カラー |
|-----------------|------------------|
| X-7 レッド | ③ レッド |
| X-10 ガンメタル | ② 黒鉄色 |
| X-11 クロームシルバー | ⑧ シルバー |
| X-12 ゴールドブリーフ | ⑨ ゴールド |
| XF-1 フラットブラック | ⑧③ つや消しブラック |
| XF-2 フラットホワイト | ⑧③ つや消しホワイト |
| XF-6 コッパー | ⑩ カッパー |
| XF-10 フラットブラウン | ⑬ 赤褐色 |
| XF-15 フラットフレッシュ | ⑤① 肌色(フレッシュ) |
| XF-51 カーキドラフ | ⑤④ カーキグリーン |
| XF-55 テッキタン | ④④ タン |
| XF-56 メタリックグレイ | ②⑧ 黒鉄色+③①フラットベース |
| XF-59 テザートイエロー | ⑩⑨ サンティブラウン |
| XF-60 ダークイエロー | ⑩⑨ ダークイエロー |
| XF-62 オリーブドラフ | ③⑧ オリーブドラフ2 |

25 M4A1の完成

砲塔を車体に水平にクリックがあるまで押し込みます。
360度どの方向からも着脱が可能です。
砲塔を外すときは持つ所に注意しながら慎重に車体から持ち上げます。

ジェリカンや弾薬箱は自由に配置してください。
車体前面のフエンダーの間に荷物受けとして板
などを取り付けている例があります。下の原寸図
を参考に0.5mm厚程度の板で自作してもよい
でしょう。
なおガソリン用ジェリカンは車体前面には通常搭
載しないのでご注意ください。

The boards between the fenders in front of
the body are examples of storage facilities
being installed. You can construct this
yourself with 0.5 mm boards by referring to
the drawing below.



《ワイヤーロープ》 D10

ワイヤーロープを取り付ける場合は、
φ0.5mm程度の市販のナイロン紐や
ワイヤーを160mmの長さで切り出し
両端にD10を接着します。

XF-56
メタリックグレイ
METALLIC GRAY

《ワイヤーロープ取り付け例》
《不要部品》
Not used.

AB, A9, A12, B1, B10-13, C2-4, C6,
C36, C38, C39, C48, C49, D3, D13, G4, G5,
G7-10, F25, G13, G15, P1, エッチング4

■アフターサービスについて

部品の不足や不良に関しては、無償で正規の部品を送付させていただきます。お手数ですが、お客様のお名前、ご住所、電話番号、商品名、不足部品の名称(番号)、数量を明記の上、メールまたは電話/FAX、お手紙のいずれかでご請求ください。またお客様都合による破損、紛失については、実費で部品をお分付いたしております。上記連絡方法のいずれかでご連絡いただければ、弊社から送料を含めた金額および送金方法をお知らせいたします。

●電話/FAXでの受け付け
TEL 054-203-2100
FAX 054-203-2103

●メールでの受け付け
info@tasca-modellismo.com

●お手紙での受け付け/部品代金の送付先
〒422-8027 静岡県駿河区豊田3-5-30 有限会社タスカモテリズモ 部品請求係

有限会社 タスカモテリズモ

〒422-8027
静岡県駿河区豊田3-5-30
TEL 054-203-2100 FAX 054-203-2103
http://www.tasca-modellismo.com
E-mail info@tasca-modellismo.com

© 2007 tasca

MADE IN JAPAN

1/35 アメリカ中戦車
M4A1 シャーマン (中期型) 塗装説明書 35-010

組み立てを始める前にお読みください

この説明書は35-010 M4A1シャーマン(中期型)の追加説明書です。組み立てに関しては、別紙の35-010 M4A1シャーマン(中期型)の組み立て説明書とあわせてご覧頂く必要があります。あらかじめそれぞれの説明書に目を通し、全体の流れを把握してから組み立てに入ってください。

M4A1シャーマンについて

第2次大戦初頭のフランス戦における英仏軍の敗北により、来るべき戦争に備える新型戦車は75mmクラスの主砲を装備していることが必須の条件であることをアメリカ軍当局も痛感していました。しかし新型のM3中戦車では、目前に迫る開戦までに75mm砲を旋回砲塔に装備することは時間的に困難と判断され、M2中戦車のコンポーネントを流用し、車体に75mm砲を限定射界で装備した姿で配備されることになりました。M3中戦車はつなぎとしての役割をよく果たし、北アフリカでのドイツ軍の進撃を押し留めることに貢献したのです。

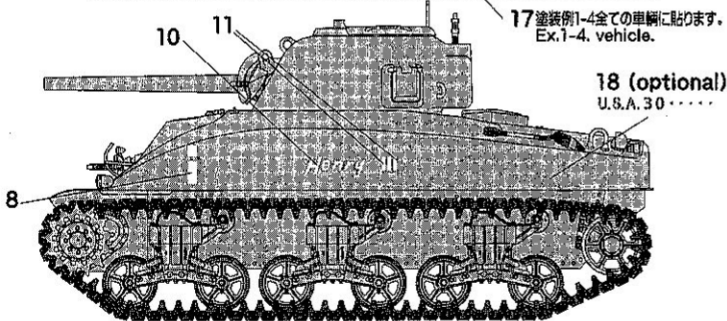
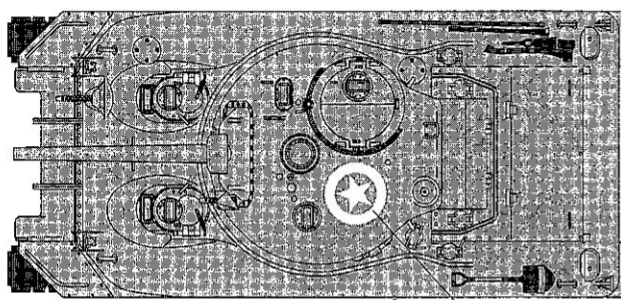
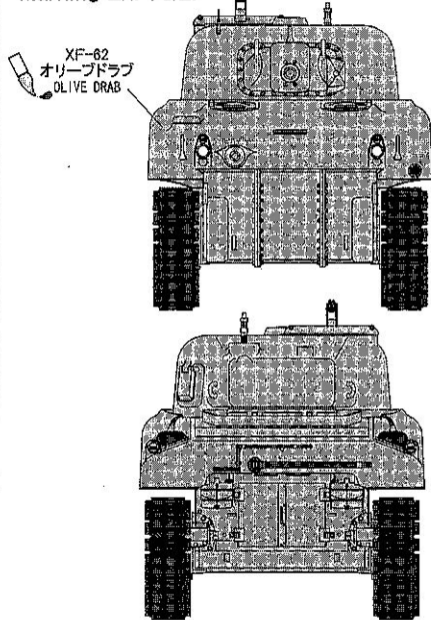
M3中戦車の開発が一段落すると、75mm砲を旋回砲塔に装備する真の主力戦車となるべき新型中戦車の開発が続いて行われました。このT6と名づけられた新型中戦車はやはり足回りははじめとするコンポーネントをM3から流用し、新規に車体上部と砲塔を開発することとされ、M3の量産開始(1941年6月)から遅れること数か月後の1942年10月にはM4中戦車として制式化が決定されました。試作型のT6は車体上部全体が鋳造製の滑らかなシルエットを持ち、被弾弾始に優れたテザインでしたが、大戦中に必要とされる量産数を確保するには鋳造製の車体を製造できる工場が足りず、溶接構造の車体を持ち、異なるエンジンを装備する形式の生産も計画されました。このためM4中戦車は、M4、M4A1からM4A4まで5つのタイプが並行して生産されることとなりました。

M4A1はT6の流れを汲む鋳造車体を持つタイプで、M4と同じ航空機用星型エンジンを採用していました。M4A1は1942年2月からシャーマンシリーズの中でも最初に量産が開始され、北アフリカのイギリス軍に直ちに供与されたのです。これに引き続きアメリカ軍も1942年11月に北アフリカに上陸、M4A1はその主力として戦線に投入されました。極初期のM4A1は車体前方にM1919A4機銃2丁を固定装備し、ドライバーズセクションの前方に直視式バイザーを装備していましたが、程なくしてこれを廃止し、サスペンションもバネを強化した新型に改められました。この後も、主砲防盾は幅広のM34A1型に改められ車体には増加装甲が追加されるなど改良が加えられ大戦終結まで使用されたのです。M4A1の75mm砲型は76mm砲型が生産される直前の1943年8月まで量産が続けられ、合計6281輛が生産されました。

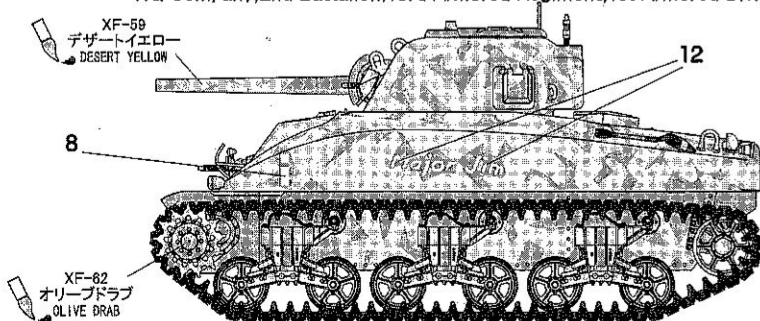
塗装例 1&2

第1機甲師団 第13機甲連隊 第2大隊 本部中隊 "Henry III" Henry E. Gardiner 中佐 1943年 チュニジア
HQ Company, 2nd Battalion, 13rd Armored Regiment, 1st Armored Division, Tunisia, Spring, 1943.

Marking Ex. 1 & 2.



第1機甲師団 第13機甲連隊 第2大隊 本部中隊 "Major Jim" James Simmerman 少佐 1943年 チュニジア
HQ Company, 2nd Battalion, 13rd Armored Regiment, 1st Armored Division, Tunisia, Spring, 1943.



第1機甲師団は1942年11月のトーチ作戦によって北アフリカに上陸しました。

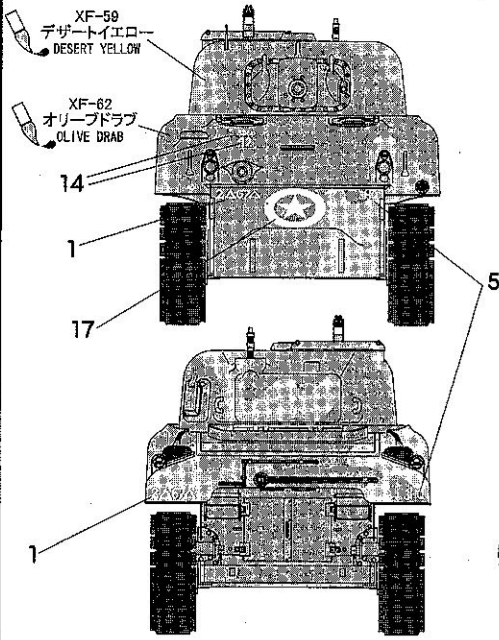
塗装例1のHenry IIIは指揮官のGardiner中佐の車輛で、チュニジアにおける中佐の3輦目のシャーマンでしたが、1943年5月にドイツの対戦車砲により撃破されています。車体後部の側面にはU.S.A. 30.....で始まる7桁の車輛登録ナンバーが描かれていますが、殆ど判読できません。18番のマークを使い自由に番号を作ってもよいでしょう。

塗装例2のMajor Jimも同じ13中隊の所属で、Simmerman少佐の車輛です。この車輛は車輛全体に泥による迷彩塗装が行われています。

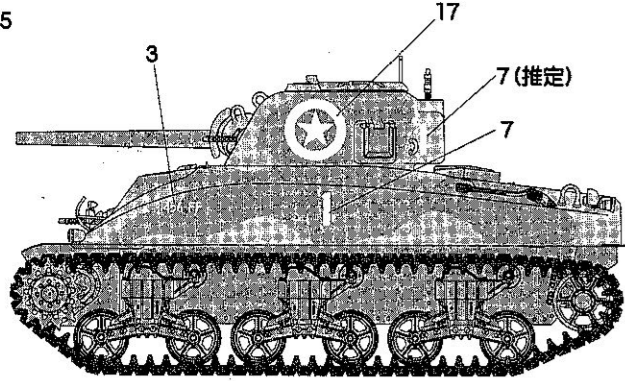
塗装例 3

第2機甲師団 第67機甲連隊 第3大隊 大隊本部 1943年7月 シシリー島
3rd Battalion HQ, 67th Armored Regiment, 2nd Armored Division. Sicily, July 1943.

Marking Ex. 3.



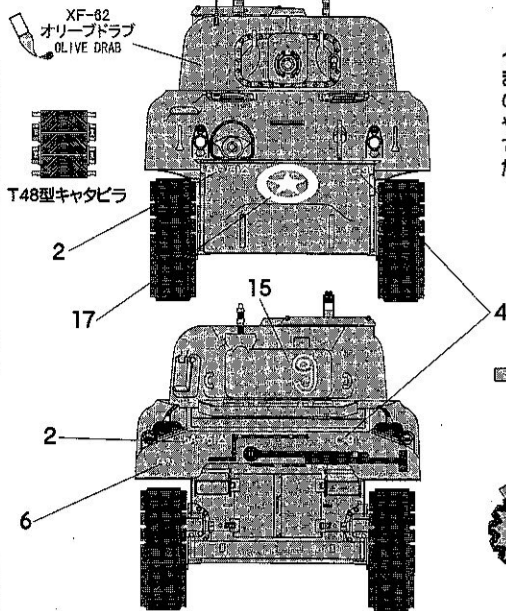
第2機甲師団は1943年7月11日、ハスキー作戦でシシリー島に上陸しました。本車は上陸に際し渡渉用のダクトを装備し、防盾と前方機銃は布でカバーされていました。イタリア戦線におけるM4A1の多くは基本色のオリーブドラブに大きな帯状のサンド色の迷彩を施しており、本車も同様の迷彩が施されていました。シシリー島の戦いは2ヶ月に及び、7月24日にイタリアが降伏後の1943年8月11日、シシリー島の戦いは終結しました。



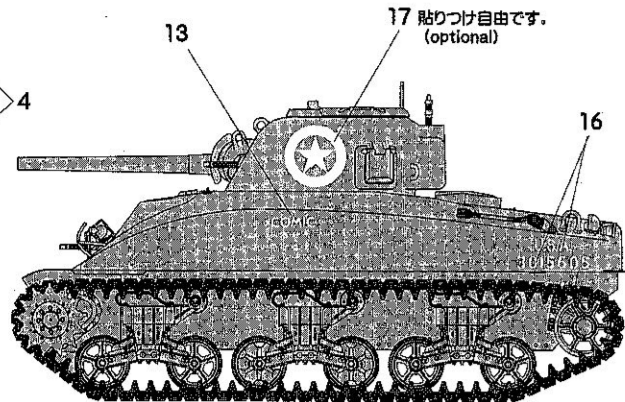
塗装例 4

第5軍 第751戦車大隊 C中隊 9号車 1945年4月 イタリア戦線
Tank No.9, C Company, 751th Tank Battalion, 5th Army. Italy, April 1945.

Marking Ex. 4.



イタリア軍降伏後もイタリアに残存するドイツ軍はイタリアを占領し、1945年4月末まで戦い続けました。第751戦車大隊はドイツ軍の降伏間近の1945年4月、イタリア北部のゴシック・ライン上のvalbura山付近に達していました。本車はキットに付属するT51型キャタビラではなくT48型キャタビラを装備し、車体後部にはハンマーを装備していました。撮影された写真が後方からのものである為、車体前方の装備は不明ですが、定期的に砲塔右前方に増加装甲が取り付けられていた可能性があります。また車体左側中央のボギーはソリッドスポークホイールを装備していました。



■テカールの貼り方

1. 貼りたいテカールを切り取ります。
2. 切り取ったテカールを水またはぬるま湯に10秒ほど浸します。
3. 台紙ごと引き上げ、布やティッシュペーパーなどの上に置いて余分な水を吸い取らせます。
4. 台紙の端を持ち、テカールをスライドさせて所定の位置に貼ります。
5. 指先に少量の水をつけて、少しずつずらしながら微調整します。
6. テカール内側に残った水や気泡を柔らかい布や綿棒などで押し出すように取り除きます。
7. 貼ったテカールが充分乾燥するまでは絶対に触らないようにご注意ください。
8. モールドなどの表面の凹凸に馴染みにくときは、蒸しタオルや市販のテカール軟化剤などを使用してください。

本キットのテカールは二ス部分が分割されているものもいくつかあります。貼る際に分離するので、あらかじめよくご確認ください。

ご協力 (順不同)

- ・陸上自衛隊富士学校
- ・パッケージ原画:加藤 肇郎 氏
- ・人形原型:吉岡 和哉 氏
- ・イラスト:モリナガ・ヨウ 氏
- ・人形イラスト:上田 信 氏

このほか製品の開発にご協力頂いた皆様にも心より感謝申し上げます。